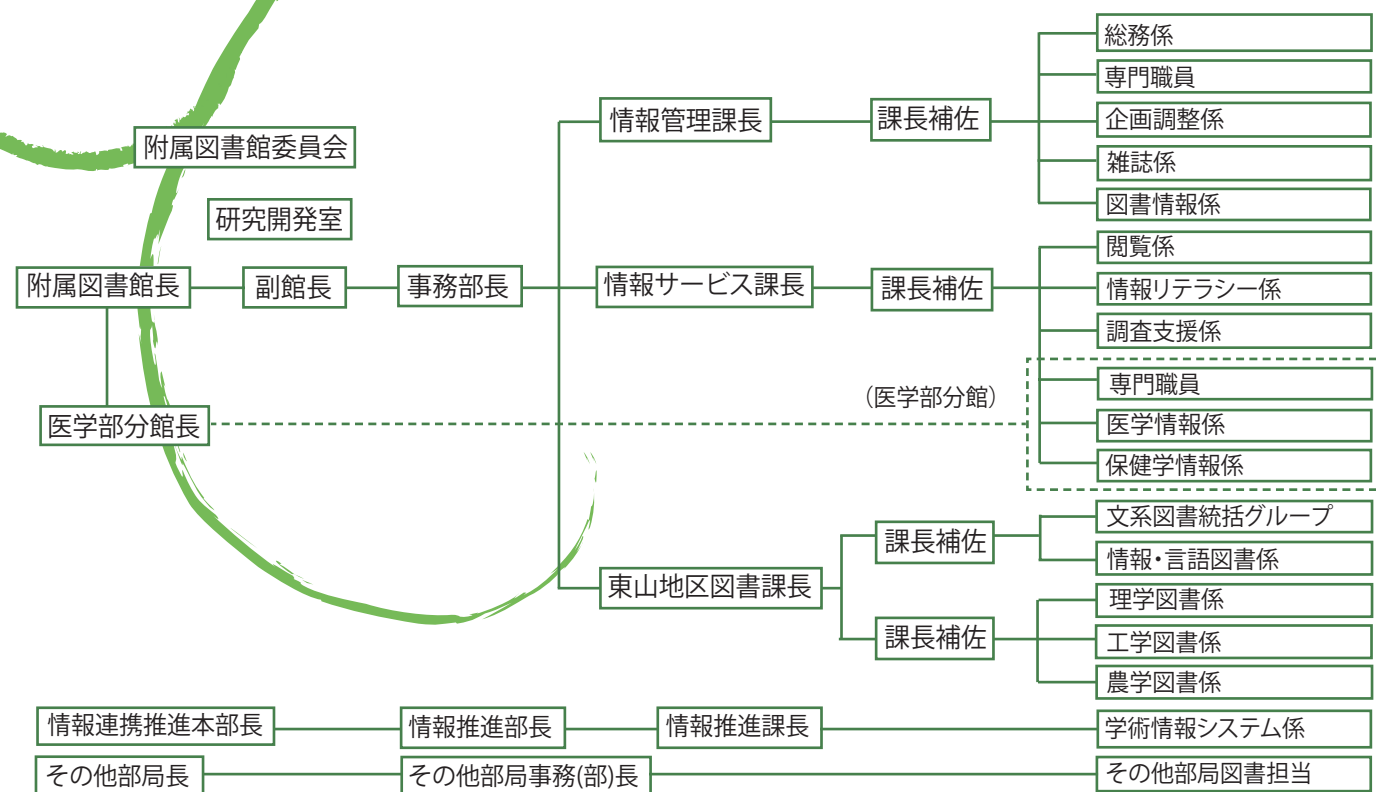




名古屋大学附属図書館概要

2020

附属図書館の運営及び事務組織



附属図書館の基本目標(2014年3月制定)

- 中央図書館, 医学部分館, 部局図書室のそれぞれの特性を生かし, 学内外の組織とも連携し, 学生, 教職員及び社会のニーズに応える先進的な利用者サービスの実施により, 以下の目標の実現を目指す。
- (1) 研究・教育学修に必要とされる学術情報の提供を行うため, 電子ジャーナル, データベース, 電子書籍等の電子資料を含む学術情報の効率的収集を行い, 充実を図る。
 - (2) 貴重資料や特色ある資料をはじめとする知的資産の収集を行い, 東海・北陸地区の基幹大学としての役割を果たすべく, 保存管理体制を構築する。
 - (3) 学生の創造的能力の向上を目指すため, 学修環境を強化し, 充実した教育学修支援を行う。
 - (4) 研究・教育学修支援を行うため, その専門知識を有する図書系職員を育成し, 適正に配置する。
 - (5) 国際的な研究・教育学修支援のため, 多言語の情報提供を行う。
 - (6) 学術情報流通の拠点として, 名古屋大学の知的研究成果を国内外に発信し, 開かれた学術情報の提供を行う。
 - (7) 地域社会との連携を積極的に進め, 地域の知的資産等の保存・継承に協力する。

沿革

| | | | |
|----------|--|----------|--|
| 1939年 4月 | 名古屋帝国大学(医・理工2学部)創設 医学部構内(昭和区鶴舞町)に附属図書館開設, 各学部に図書分室設置 | 1981年 9月 | 新中央図書館開館 |
| 1942年 4月 | 理工学部が工学部と理学部に分離, 両学部に 図書分室設置, 東山キャンパスへ移転 | 1994年10月 | 中央図書館増築工事竣工 |
| 1945年 | 空襲により図書館資料の一部焼失 | 2001年 4月 | 附属図書館研究開発室設置 |
| 1946年 3月 | 環境医学研究所附置に伴い図書室設置 | 2006年 2月 | 名古屋大学学術機関リポジトリNAGOYA Repository公開 |
| 1947年10月 | 名古屋大学附属図書館に改称 | 2009年12月 | 中央図書館にラーニング・commons設置 |
| 1948年 9月 | 文学部及び法経学部設置に伴い両学部に図書 分室設置 | 2010年 5月 | 中央図書館にコーヒーショップ開店 |
| 1948年10月 | 附属図書館が昭和区鶴舞町から中区南外堀町 へ移転 | 2010年 7月 | 理学部の全学科図書室を統合し理学図書室開室 |
| 1950年 4月 | 法経学部の分離に伴い法学部図書室, 経済学部 に図書分室設置 | 2011年 6月 | 工学部中央図書室がES総合館に移転開室 |
| 1952年 4月 | 瑞穂分校及び豊川分校統合による教養部(瑞穂区 瑞穂町)設置に伴い図書分室設置 | 2012年 6月 | 金沢, 静岡, 名古屋大学附属図書館による「学習支援促進 のための三大学連携事業に関する協定」締結 |
| 1952年 9月 | 農学部設置(安城市新田町)に伴い図書分室設置 | 2014年 3月 | 中央図書館老朽対策等基盤整備事業竣工 |
| 1960年 8月 | 文・理の2学部を除く各学部に図書掛設置 | 2015年 3月 | 医学部分館(鶴舞・大幸キャンパス)改修事業竣工 |
| 1964年12月 | 東山キャンパスに古川図書館(中央図書館)開館 | 2016年 4月 | 名古屋大学オープンアクセスポリシー制定 |
| 1966年 4月 | 農学部(図書室)東山地区へ移転 | 2017年 3月 | アイソトープ総合センター図書室廃止 |
| 1970年10月 | 附属図書館報『館燈』創刊 | 2017年 4月 | 附属図書館支援事業(特定基金)設置 |
| 1973年 3月 | 鶴舞キャンパスに医学部分館設置 | 2017年10月 | 附属図書館事務部組織の再編 |
| | | 2017年11月 | ジェンダー・リサーチ・ライブラリ開館 |
| | | 2018年 7月 | ビブリオサロンをOKB高木家文書資料館へ改称 |
| | | 2019年 7月 | 高木家文書が国の重要文化財に指定される |
| | | 2020年 4月 | 東海地区国立大学機構が発足 附属図書館は運営支援組織へ改組 |

数字で見る附属図書館(2019年度)

サービス対象者数 25,331人 (学部生 10,017人, 院生 6,377人, 教員 3,603人, 職員 5,334人)

| | 蔵書数 | | 合計 | 所蔵雑誌 種類数 |
|-------|-----------|-----------|-----------|-------------|
| | 和書 | 洋書 | | |
| 中央図書館 | 704,282 | 530,324 | 1,234,606 | 17,820 |
| 医学部分館 | 112,426 | 86,649 | 199,075 | 5,828 |
| 部局図書室 | 1,000,315 | 918,088 | 1,918,403 | 31,278 |
| 合計 | 1,817,023 | 1,535,061 | 3,352,084 | 54,926 |

図書館サービス

| | 開館日数 | 入館者数 (内学外入館者) | 貸出冊数 |
|---------------------|---------|-----------------------|---------|
| 中央図書館 | 343 | 743,709 (34,647) | 173,042 |
| 医学部分館 (保健学図書室除く) | 271 | 104,384 (413) | 4,625 |
| 部局図書室 | 135~268 | 399,970 (3,710) | 91,073 |
| 合計 | — | 1,248,063 (38,770) | 268,740 |

| 図書館経費 | 単位:千円 | | | |
|-------------|---------|---------|---------|-----------|
| | 中央図書館 | 医学部分館 | 部局図書室 | 合計 |
| 図書費 | 334,785 | 104,797 | 417,075 | 856,657 |
| 図書費のうちEJ相当分 | 225,908 | 79,914 | 250,876 | 556,698 |
| 運営費 | 204,768 | 20,460 | 73,435 | 298,663 |
| 合計 | 539,553 | 125,257 | 490,510 | 1,155,320 |

| | 相互利用(中央館) | | 依頼件数 | |
|-------------|-----------|----|-------|-------|
| | 国内 | 海外 | 国内 | 海外 |
| 文献複写 | 1,690 | 73 | 2,642 | 132 |
| 現物貸借 | 1,103 | 1 | 1,044 | 41 |
| 参考質問件数(中央館) | | | | 1,609 |

| 電子図書館サービス | |
|---------------------------|------------|
| 電子ジャーナル提供数 | 21,486誌 |
| 電子ジャーナルダウンロード件数 | 2,896,985件 |
| 電子ブック提供数 | 25,438種 |
| データベース提供数 | 43種 |
| データベース検索数 | 456,022件 |
| NAGOYA Repository登録件数 | 27,929件 |
| NAGOYA Repositoryダウンロード件数 | 1,933,053件 |

| 施設 | | |
|-------|---------------------|-------|
| | 面積(m ²) | 座席数 |
| 中央図書館 | 15,597 | 1,122 |
| 医学部分館 | 2,964 | 476 |
| 部局図書室 | 9,161 | 577 |

ラーニング・commons

中央図書館ラーニング・commonsは, 自律的な学習を支援し, 知識の創造を促す図書館の新しい学習空間です。以下のような学習環境を学生のみみなさんに提供することを目指しています。

- 図書館の学術情報基盤をもとにして, 協同学習, ITを活用した学習が行える総合的な学習環境
- 情報リテラシー能力の育成及び学習を効果的に行えるサポートサービス
- 学習及び学生生活に関する各種情報の提供

→ <https://lc.nul.nagoya-u.ac.jp>



おもなコレクション

高木家文書

高木家文書は, 美濃国石津郡時・多良両郷(現・岐阜県大垣市上石津町域)を本拠とする, 旧旗本交代寄合・西高木家に伝来した古文書群です。総数は10万点に及ぶとみられており, 幕府瓦解とともにほとんどの旗本資料が散逸したなか, 他に例をみない, 傑出した規模と内容を有しています。

高木家文書は, 旗本領主制の研究に寄与する旗本文書であるだけでなく, 国内最大級の系統的河川・治水史料でもあることから, 高い評価と注目を集め, 様々な分野で活用されてきました。

現在までに6万2,000点余が目録化されており, 附属図書館研究開発室では, 残る書状類の整理を進め高木家文書の全体像の解明に取り組むとともに, 損傷・劣化が進んだ文書の修復と保存環境の改善, 利用環境の向上に努めています。



木曾三川流域大絵図
高木家が河川管理に用いた宝暦治水(1754-55年)以前の流域環境を示す絵図。

伊藤圭介文庫

日本における近代植物学の祖といわれる伊藤圭介の稿本188冊を集めたもの。
『錦窠植物図説』『錦窠魚譜』『錦窠蟲譜』などの図譜のほか, 『採草叢書』などがある。



『錦窠植物図説』より

水田文庫

アダム・スミスの世界的研究者である水田洋名古屋大学名誉教授の旧蔵書で, 近代西欧社会思想史関係の原典2,255点, 水田名誉教授宛ての書簡45点を含む約7,350冊のコレクション。

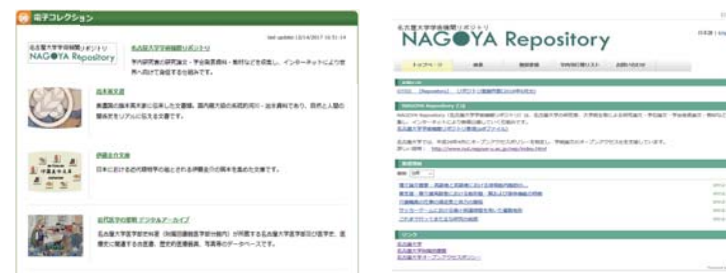


水田文庫の一部



宝暦4(1754)年2月15日付 起請文

学術情報のデジタル化・情報発信



電子コレクション→ https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/db/e_collect/ NAGOYA Repository→ <https://nagoya.repo.nii.ac.jp/>

研究開発室

2001年4月に設置された附属図書館研究開発室では, 全学における教育研究支援機能の高度化を図るため, 電子情報資源と伝統的紙媒体資料を統合したハイブリッド図書館の実現に向けた研究開発を行っています。

主な研究課題

- 貴重資料のデジタルアーカイビング
- 地域諸施設との連携と地域社会への貢献
- 情報リテラシー教育の普及と高度化
- 教育研究支援のためのシステム開発

刊行物

- 附属図書館研究年報
- 附属図書館研究開発室年次報告

